

北海道港湾空港建設協会

会報

平成28年1月

北のみなと

No.87



— 目 次 —

新春のご挨拶 (北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹)…………… 1

Report

港関係7団体と北海道開発局が意見交換会を開催…………… 2

日本港湾空港建設協会連合会と北海道開発局が意見交換会を開催… 5

港関係団体連絡会と北海道開発局担当者が意見交換会を開催………… 8

受賞

北海道水産林務部 平成27年度 水産土木・森林土木工事等優秀業者表彰… 9

各種記事

我が社の安全衛生管理

(株)工藤組 総務部システム管理課長 種田 哲也)…………… 10

工事現場紹介「新千歳空港 A滑走路北側液状化対策工事」

(五洋建設(株) 札幌支店 新千歳工事事務所 工事所長 鈴木 定義)………… 12

私の趣味「音楽鑑賞・・・ジャズ」

(東亜建設工業(株) 北海道支店 支店長 金子 功)…………… 14

国土技術開発賞(国土交通大臣賞)受賞

「永久型砕工法の特色と効果について」

(株)南組)…………… 16

Topics

イベント

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」開催される…………… 18

北海道開発局と室蘭開発建設部で「防災・危機管理訓練」を実施………… 19

小樽港フィールド・ラーニングの開催…………… 20

冬の小樽運河観光がスタート…………… 20

留萌市で「道北地域連携シンポジウム」を開催…………… 21

過去最多の来場 苫小牧漁港ホッキまつり…………… 21

一大供給基地に期待 釧路港バルク物流拠点着工祝う…………… 22

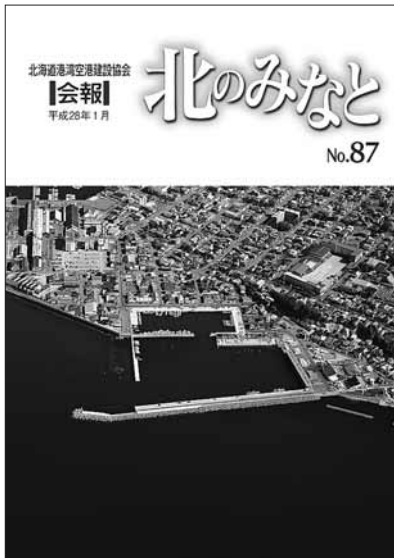
大型客船寄港

室蘭港にマリナー・オブ・ザ・シーズが入港…………… 23

釧路港に「シルバー・シャドウ」寄港…………… 24

Information

事務局だより…………… 25



函館漁港は、北海道西部の渡島半島の南部に位置し津軽海峡に面した場所に位置した第3種の漁港です。

主要魚種は、イカで生産額全体の98%を占めます。

イカの水揚げは、函館港と函館漁港で行われていますが、活イカは海水の水質が良好な函館漁港で水揚げされ、湯の川温泉街への活イカ安定供給等、重要な役割を果たしております。

「函館のイカ」のブランド化の推進を行うため、屋根付岸壁による迅速な水揚げ作業の確保を図り、活イカの水揚げ時の衛生・鮮度保持対策に寄与しています。一方、水産資源の持続的利用の促進を図るため、藻場を中心とした漁場環境を负荷した外郭施設を有しています。

また、この函館漁港には、明治29年に近代土木の父として有名な廣井勇博士が着工した石積防波堤が現存しています。この石積防波堤は、廣井勇博士が建設した防波堤として有名な小樽港の国内初の本格的な外洋防波堤より1年早く着工したものです。

新春のご挨拶



北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹

平成28年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

北海道港湾空港建設協会は、昭和61年4月28日に設立され、昨年30周年を迎えこれまでの当協会の活動に賜りました、会員、関係者の皆様の多大なご支援、ご協力に心より感謝を申し上げます。

わが国の財政の現状は、急速な高齢化の進展に伴う社会保障費等の増大により歳出が伸び続け、長期にわたる景気の低迷等で税収が伸び悩み、歳入の半分近い額を借金に依存する状態が続いています。

このような深刻な財政状況の中でも、震災、土砂災害、風水害など災害リスクを持つわが国の厳しい自然環境の下で、地域の持続的な活性化並びに雇用の創出、国民の安全・安心の確保を図るため、社会資本の整備を計画的かつ効率的に実施することが求められています。

北海道は、その耕地面積、水揚げ高などから日本の食料基地と位置づけられております。北海道の港湾において、農水産品物流の拠点としてこの高い食料供給力を効率よく発揮する機能を強化すること、地域経済を支える

機能を強化すること、離島交通の安定的確保を図ることが活力と魅力ある北海道とするために極めて重要であり、港湾施設整備の推進が必要と考えております。

また、国内・国際航空ネットワークの維持を図るため、空港施設の機能維持、向上を推進することが必要と考えております。

港湾空港関係建設業界は、今後の事業の見通しが不透明なことや建設業としての将来の担い手確保に不安を抱えておりますが、社会資本の整備、維持に携わり災害に速やかに対応することが期待されている建設業の役割は益々重要なものとなっております。

本協会の目的であります、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに港湾空港整備の促進に寄与するため、会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら諸課題に取り組んで参る所存であります。

会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いするとともに、新しい年が皆様方にとりまして、希望に満ちた発展の年になりますことを心より祈念いたします。

港関係7団体と北海道開発局が 意見交換会を開催

平成27年12月11日ホテルポールスター札幌において港関係7団体と、北海道開発局で「港湾・空港・漁港事業に係わる要望・意見交換会」を開催した。

なお、当協会が要望した4項目のうち回答があったのは、当日に要望説明をした2項目のみで下記の回答要旨は、その回答内容を事務局で取りまとめたものを記載している。



北海道開発局



港関係団体

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長	笹島隆彦
港湾計画課長	中島靖
港湾計画課港湾企画官	早川哲也
港湾建設課長	伊藤晃
港湾建設課港湾保安保全推進官	上田裕章
港湾建設課課長補佐	矢野隆博
港湾行政課長	山越祐二
港湾行政課課長補佐	飯田誠
空港課長	魚住聡
空港課課長補佐	今宗紀
水産課長	本田耕一
水産課水産企画官	伊藤千尋
港湾建設課建設第2係長	工藤博文

◎港関係団体

◎北海道港湾空港建設協会	
会長	宮崎英樹
技術委員会 副委員長	宮本義憲

○(一社)北海道建設業協会

港湾・漁港部会会長	藤田幸洋
副会長	百瀬治

○(一社)全日本漁港建設協会

北海道支部長	坂敏弘
副支部長	吉本正則

○(一社)日本埋立浚渫協会

北海道支部長	金子功
技術委員長	石脇雅生

○(一社)日本海上起重技術協会

北海道支部長	宮崎英樹
副支部長	西村幸浩

○全国浚渫業協会

北海道支部長	藤田幸洋
--------	------

○(一社)日本潜水協会

札幌支部長	堀松宏朗
-------	------

○港関係団体連絡会

会長	中村弘之
----	------

北海道港湾空港建設協会 要 望 書

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存するなど、港湾は極めて重要な社会資本になっております。特に、北海道は、耕地面積が日本の4分の1、日本一の水揚げ高など我が国の食料供給基地であり、北海道の港湾が農水産品物流の拠点として貢献しております。また、災害発生時の輸送拠点、クルーズ船観光の玄関口としての機能も期待されており、港湾の着実な整備が活力あり魅力のある地域となるために極めて重要であります。

会員各企業は、建設投資が急激に減少した状況の中で、港湾空港関係工事の施工能力を維持するため、一層の合理化などの経営努力を重ね、各地域の経済活性化や国土強靱化への取り組みなどを通じて、港湾空港建設業としての社会的重要性を認識し期待される役割を果たしていく所存であります。

会員各企業の現状を踏まえ、下記に懸案事項を取りまとめましたので格別のご理解とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

要 望 事 項

1 平成28年度港湾空港関係予算の確保について

国際物流機能の強化、国土強靱化に向けての取り組み、食料供給力の強化、地域経済を支える港湾機能の強化、離島交通の安定的確保を図るため、港湾施設の整備を推進すること、漁港・漁場の整備を推進することが必要と考えております。

また、国内・国際航空ネットワークの維持を図るため、空港施設の機能維持、向上を推進することが必要と考え

ております。

これらの事業を適切に安定的に推進していくためには、会員各企業の安定的な経営と担い手の確保、育成が必要不可欠です。

平成28年度の港湾空港関係予算につきまして、港湾空港建設業の健全な経営が可能となるよう安定的かつ持続的な確保をお願い申し上げます。

また、平成27年度港湾空港関係補正予算の措置をお願いいたします。

【回答要旨】

当該要望については、港湾・空港・漁港別の事業概要資料が配付され、この資料に基づき27年度事業と28年度概算要求概要についての説明があった。

2 適切な発注時期について

港湾、漁港における海上工事の施工は、気象、海象の影響を受けて品質と安全の確保に支障が生じる事態、季節で変化する漁業活動に伴い工事の施工が制限される事態、また、総合評価落札方式による落札決定が長引く場合があります。

適切な工程管理の下で適期の工事の施工を確保するため、早期発注、海域特性に配慮した発注などをお願いいたします。

3 任意着手制度の推進について

平成25年度補正予算から採用された任意着手制度は、工事の受注に当たり適格な技術者の配置の観点から有効な制度となっております。

現在、本制度が活用されていない地域もありますので、適用地域の拡大と着手期間の拡大をお願いいたします。

【回答要旨】

年度末の発注では有効なことから、ゼロ国債や翌債工事を中心に適用している。

本制度は契約から最大90日間となっている。業界の評価を踏まえ本制度の採用を検討して参りたい。

4 大型ブロック製作工事について

現状における大型ブロックの製作費は、製作個数により設計請負額と乖離が生じる場合があります。当該乖離の主たる原因は、設計請負額の算出に適用されるブロックの転置に使用するクローラクレーンの歩掛りが実態に即していないことにあるものと思われまます。

大型ブロック製作工事に使用するクローラクレーンの歩掛り等につきまして、実態に即した改善をお願いいたします。

以下、他協会の要望事項

(一社) 北海道建設業協会 港湾・漁港部会

1. 平成28年度当初予算における公共事業費の増額確保について
2. 平成27年度予算の追加補正措置（ゼロ国債を含む）について
3. 防災・減災に不可欠な基盤施設の整備について
4. 地元建設企業への受注機会の確保について

(一社) 全日本漁港建設協会 北海道支部

1. 安定的で持続的な予算の確保について
2. 平成27年度補正予算（ゼロ国債を含む）の確保について
3. 防災・減災対策の更なる推進について
4. 早期発注及びゆとりある工期の設定について

(一社) 日本埋立浚渫協会 北海道支部

1. 港湾関係公共事業について
2. 技術提案評価型（S型）工事の確保について
3. 技術提案評価型（S型）企業評価項目について
4. 配置予定技術者の工事成績適用について

(一社) 日本海上起重技術協会 北海道支部

1. 平成28年度港湾関係予算の確保について
2. 地元企業への工事量の確保について
3. 登録海上起重基幹技能者の評価について
4. 作業船の保有及び代替建造に対する支援について
5. 実態に即した起重機船の回航・えい航費について
6. プッシャーバージの運航規制強化への対応について

全国浚渫業協会 北海道支部

1. グラブ浚渫工事量の確保・増大について
2. 非自航作業船に掛かる固定資産税（地方税）の負担の軽減
3. 環境対策に配慮した非自航作業船の建造に係る補助金制度の創設
4. 政府系金融機関における作業船建造に係る特別貸付の導入

(一社) 日本潜水協会 札幌支部

1. 港湾潜水作業にかかる事業量の確保について
2. 港湾潜水技士資格の活用について
3. 「潜水工事」を建設業法に定める専門工事への追加認定について
4. 改正高気圧作業安全衛生規則の施行に関する適切な対応について

日本港湾空港建設協会連合会と北海道開発局が意見交換会を開催

平成27年12月10日ホテル札幌ガーデンパレスにおいて日本港湾空港建設協会連合会（日港連）が北海道開発局と意見交換会を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



北海道開発局



日港連

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長	笹島隆彦
港湾計画課長	中島靖
港湾計画課港湾企画官	早川哲也
港湾建設課長	伊藤晃
港湾行政課長	山越祐二
空港課長	魚住聡
農業水産部水産課長	本田耕一
水産課水産企画官	伊藤千尋
港湾建設課建設第2係長	工藤博文

◎日本港湾空港建設協会連合会

会長	川島康宏
専務理事	幸田勇二
技術委員長	大滝雅宣
技術委員会WG委員長	小松英則
技術委員会WG委員	澤木進
技術委員会WG委員	篠原邦彦

◎北海道港湾空港建設協会

会長	宮崎英樹
副会長	吉本正則
副会長（技術委員長）	藤田幸洋
副会長（広報委員長）	金子功
副会長（企画委員長）	西村幸浩
技術委員会副委員長	宮本義憲
技術委員（部会長）	中村弘之 （日港連技術委員）
技術委員（副部会長）	石脇雅生
技術委員	杉本義昭 （日港連技術委員）
技術委員	手塚定雄
技術委員	岩城儀人
技術委員	竹中正
技術委員	柴田政雄
技術委員	岡崎光信
技術委員	高柳省一
技術委員	市来隆

要望事項

日頃より日港連の活動に深いご理解と温かいご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

当連合会は、「港湾空港建設技術の開発及び向上」と「港湾空港建設業の健全なる発展及び社会的地位の向上」を目的に掲げ、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全国の都道府県協会を結集して1984年（昭和59年）に設立され、以来32年を数えます。

この間、日港連の会員各社は一貫して我が国の経済、産業を支える港湾・空港インフラの整備に携わり、建設業の立場から我が国の発展に寄与してまいりました。

さて、我が国は急速に進む人口減少社会を迎えております。政府では、こうした少子・高齢化に歯止めをかけ、50年後も人口1億人を維持する「1億総活躍社会」の実現を目指してアベノミクス・第2ステージがスタートしました。第2ステージを支える新たな3本の矢として、「希望を生み出す強い経済」等が掲げられております。強い経済を支え、アベノミクス効果を全国津々浦々に波及させていくためには、経済成長の基盤となる社会資本の整備が不可欠です。

全国に所在する私どもの会員企業は、これまで地域の社会資本整備を担ってきており、これからも地域社会の活性化に貢献したいと考えております。しかしながら港湾空港建設業界は、今後の事業の見通しが不明確なことや、建設業として将来の担い手確保に不安を抱えております。

このような現状を踏まえ、私どもが抱えております当面の懸案事項につきまして、下記のとおり要望申し上げますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1. 港湾関係社会資本の安定的・持続的な整備推進

人口減少社会を迎える中で我が国の経済を再生するためには、国際物流や地域経済を支える港湾機能の強化が必要です。また、切迫性が指摘されている南海トラフ・首都直下地震等に対する事前防災・減災対策の推進や施設の老朽化対策など安全・安心の確保も喫緊の課題となっております。

また、これらの事業を安定的に推進していくためには、地域維持を担う建設企業の安定的な経営と将来の担い手の確保・育成が必要です。このため、先般改訂された第4次社会資本整備重点計画におきましては、今後の事業量の安定的な確保とその事業見通しを明らかにするとともに、地方ブロックごとの重点計画を策定することが明記されております。

つきましては、これら港湾関係社会資本の整備推進に必要な予算を安定的かつ持続的に確保するとともに、今後の事業見通しについて、地域ブロックごとの計画を明らかにしていただきますようお願い申し上げます。

2. 港湾空港建設業の健全な発展が可能な公共調達制度の改善

制度の改善

公共工物品確法の改正を受け、今年4月より発注関係事務の共通ルールとなる運用指針が全面的に施行されました。これにより請負者としての適正な利潤確保や、将来の担い手の確保が期待されるのですが、現状では未だに課題も多く残されております。

つきましては、港湾空港建設業の健全な発展が可能となるよう、以下の項目についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

(1) 入札・契約制度の改善

①現場条件を踏まえた積算価格の算定

小規模な工事や特殊な工事など標準歩掛による積算が適切でない場合には、見積もりを採用するなど施工実態を反映させた積算を行うこと。

②設計変更ガイドラインの拡充と適切な設計変更の実施

改正品確法の趣旨を踏まえガイドラインの拡充を図るとともに、現場条件不一致等に対しては適切な設計変更を行うこと。

(2) 建設業の担い手確保に資する適正な工期設定

①休日取得が可能となる工期設定

必要な準備期間を確保するとともに、現場の施工条件等を十分考慮したうえで、休日の取得が可能となるような工期設定を行うこと。

②発注時期の適正化

最適な施工時期に現地施工が可能となるよう、必要に応じて国庫債務負担行為、翌債措置の積極的な活用により発注時期の適正化を図ること。

(3) 工事書類の簡素化等による生産性の向上

①工事書類の削減

施工計画書等の提出頻度の削減や電子納品における紙ベースでの納品廃止の徹底。

②工事請負契約の電子化

工事請負契約のプロセスを電子化することにより、印紙税負担の削減、事務手続きの効率化を図ること。

(4) 作業船の維持・保有のための環境整備

①今後の事業量の安定的な確保

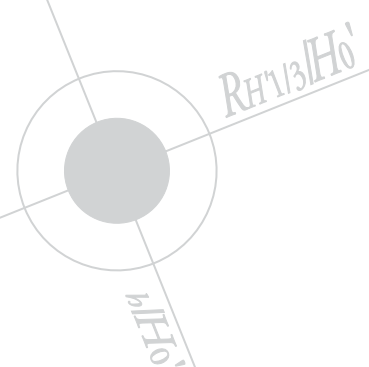
作業船を安定的に維持・保有できるよう計画的な事業量を確保すること。

②作業船建造にかかる融資制度の創設

作業船の共有建造制度や低利融資制度など支援制度の拡充を図ること。

(5) 公共調達制度の港湾管理者等への指導

改正品確法の運用指針など公共調達制度について港湾管理者等への指導を徹底。



港関係団体連絡会と 北海道開発局担当者が 意見交換会を開催



平成27年11月24日北海道建設会館において港関係団体連絡会（中村弘之会長）は、北海道開発局と平成27年度港湾・空港・漁港の工事に関する意見交換会を開催した。

北海道開発局から港湾空港部の伊藤晃港湾建設課長、魚住聡空港課長、農業水産部の本田耕一水産課長など8名が出席、港関係団体連絡会から中村弘之会長、山田悦郎副会長、石脇雅生副会長など港関係7団体から13名が出席して「入札・契約に関する要望」「設計・施工に関する要望」について意見交換を行った。主な要望内容は以下のとおり。



北海道開発局



港関係団体連絡会

主な要望内容

入札・契約に関する要望

1. 工事の発注時期等について
2. 任意着手制度について
3. 作業船保有状況評価について

設計・施工に関する要望

1. 海上材料投入単価について
2. ブロック製作について
3. 陸上機械の運搬について
4. 作業船規格・回航費・損料について
5. ブロック撤去について
6. ケーソンの吊り筋計上について
7. 品質証明費について

北海道水産林務部 平成27年度 水産土木・森林土木工事等 優秀業者表彰

北海道水産林務部は、平成27年度工事等優秀業者感謝状の贈呈式を12月15日KKRホテル札幌で挙行了。同部所管の平成26年度完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に尽力した工事部門20社、委託部門3社に知事感謝状が手渡された。表彰された優秀業者のうち、水産土木部門では当協会の勇建設(株)、(株)森川組、萌州建設(株)、藤建設(株)、釧石工業(株)の5社が受賞した。

森林土木部門では、当協会の(株)南組、丹羽建設(株)、(株)宮原組の3社が受賞した。

[水産土木部門受賞]

勇建設(株) (札幌市)	代表取締役社長	坂 敏弘
(株)森川組 (函館市)	代表取締役社長	森川 基嗣
萌州建設(株) (留萌市)	代表取締役社長	畑中 修平
藤建設(株) (稚内市)	代表取締役社長	藤田 幸洋
釧石工業(株) (釧路市)	代表取締役	西村 智久

[森林土木部門受賞]

(株)南組 (様似町)	代表取締役社長	南 修
丹羽建設(株) (浜頓別町)	代表取締役社長	丹羽 幹典
(株)宮原組 (厚岸町)	代表取締役	宮原 文憲

RHH/HO'

b/HO'



我が社の安全衛生管理

(株)工藤組 総務部システム管理課長 種田 哲也

1. はじめに

当社は、函館市に本社がある公共土木工事の施工を主体として昭和33年に創業し今年57年を迎えた建設会社です。

「人と環境に優しい仕事をする建設業を確立し、地域の開発に貢献する」を経営理念とし、「技術、安全、品質、環境保全に優れた建設工事を通して豊かで明るい社会を作り上げる」ことを経営方針としています。



工藤組本社

当社は、平成10年に道南でいち早くISO（品質）に取り組み平成11年1月に認定登録されました。

安全衛生管理に対して早くから取り組み、当社社長が函館建設業協会の労務安全委員長として活動していることから特に安全に対する意識が高い会社であり、年1回の安全大会は協力会社、資機材納入会社の参加により長年取り組んできました。毎年掲げる本社安全衛生スローガンも社員からの応募により選定するもので、全社員の積極的な安全活動への参加が見られます。また、「セーフティーラー北海道」へは北海道で開催が始まってから全社を挙げてその企画に参加し、安全運転に対する認識を高め毎年優秀チームに対し、翌年の安全大会で表彰しています。

2. 安全衛生基本方針

当社は安全衛生推進委員会を設立し、労務安全部と工事部を中心とした共同組織として業務遂行に伴う労働災害・交通事故防止活動のため、労働基準法、労働安全衛

生法、労働安全衛生規則、道路交通法及び業界独自の安全衛生基準として定めた建設業労働災害防止規定、その他建設業法をはじめとする各種関連法令則等を厳守した計画・実施・評価・改善のシステムを展開し、安全で快適な職場環境を構築することを目的として安全活動を実施しています。「安全はすべてに優先する」をスローガンに、

- 1) 「安全第一」「人間尊重」の基本理念に立脚した安全活動を更に推進する。
 - 2) 作業環境を整備し、より安全快適な職場形成を行う。
 - 3) 企業の社会的責任を自覚し、公衆災害の絶滅を図る。
- の3点を掲げ、安全衛生推進委員会として「労働・交通事故0をめざす！」を目標にして活動しています。

3. 安全衛生管理計画

毎年4月第一週目に安全衛生推進委員会を開催し前年度の活動報告を行い、当年度の活動計画について春の安全衛生大会で安全衛生管理計画を発表しています。年内計画ではその月毎の月間目標とそれに合わせた重点管理推進事項を定め活動の基本としています。また、各現場における安全衛生管理計画にはこれを反映した現場の実態に見合った具体的な計画を立て活動しています。

4. 安全衛生活動

当社の1年間の安全衛生活動を紹介致します。

①年度労働災害防止・交通事故防止安全大会

春先の工事着工前に、当社協力会社を含んだ安全大会を開催しています。大会では前年度の安全衛生活動、今年度の安全衛生活動計画を報告し、特別講話として今年は「メンタルヘルスもコミュニケーションから」を



安全大会 社長訓示

聞き安全衛生推進の参考に致しております。また、前年度安全三者表彰で事業者賞、現場賞、個人賞やセーフティリーダー優秀チームへの表彰を行い安全への意識向上を図っています。

②本社・工和会合同安全衛生パトロール

10月の全国労働安全衛生週間に合わせ、毎年社長を先頭に協力会社(工和会)とともにパトロールを実施しています。全現場をパトロールし社長の目、営業の目、総務の目及び協力会社からの厳しい目線で確認し各現場に対しての指示・指導・是正・教育等を行い災害防止の強化を図っています。



合同安全衛生パトロール



工事現場の点検・確認

③店社パトロール

毎月1回労務安全部で全現場に対して、安全衛生パトロールを実施し現場設備、作業状況、安全書類の点検・確認をして指示事項があれば指示書を記載し、改善・是正を促して災害防止につなげています。

④安全衛生推進委員会

毎月1回開催し、店社パトロールへの参加、また独自に安全衛生パトロールの実施、関係者全員の事故及び健康障害を防止するための基本となるべき対策の検討及びその周知。現場における災害防止を安全衛生推進委員による提案・助言・指導・協力を行い、万一の事故発生時における原因の究明、再発防止対策の決定及び周知徹底を図っています。

⑤災害防止協議会

毎月1回の現場における災害防止協議会に対し労務安全部が参加して助言・指導・教育を行っています。又内部・外部からの通達事項や災害情報について各現場に対して情報を水平展開し現場での災害防止協議会で確認しています。

⑥安全衛生外部研修

当社職員の安全衛生教育について外部による講習会への積極参加により資格の取得等に活用しています。毎年建設業労働災害防止協会主催の「現場管理者統括管理講習」や「施工管理者のための足場点検実務者研修」「各種再教育講習」などに参加し日々の安全管理に活用しています。

5. 作業所安全衛生活動

各現場において工事着工時に、主たる安全対策事項に工種毎のリスクアセスメント、リスクの再評価を実施し、毎月の安全計画、日々の作業指示、危険予知活動においてもリスクの低減のための対策を行い安全活動に反映しています。又、現場での朝礼においては労務安全部からの各種通達や指示事項を作業員に対し周知することにより高い意識での安全優先を第一とした作業を実施しています。

その他の活動では、「函館バリーポート競漕」に初回より参加し現場技術者の体力限界に挑んでおります。

6. むすびに

最近周囲で発生している重大災害を目の当たりにするたびに安全に対する認識を新たにしています。当社としては特に墜落・転落災害の防止が最重点課題として「ハーネス型安全帯」の普及に努め、購入して実際に活用しリスクの低減に取り組んでいるところです。また、その他予測される現場のリスクには施工検討会を開催、労務安全部と工事が一体となり、検討・精査し他現場へ速やかに水平展開しています。



ハーネス型安全帯の装着状況

工事を完成させた時に“災害が発生しなかった”ではなく、“災害を発生させなかった”と言える安全衛生管理体制の充実を進めていることでむすびとします。

新千歳空港 A滑走路北側液状化対策工事

RH



6/Ho'

五洋建設(株)札幌支店 新千歳工事事務所

工事所長 鈴木 定義

1. 工事の概要

新千歳空港は、国内第4位の乗降客数を有し、北海道の航空輸送ネットワークの重要拠点である。また、大規模な地震発生時には、北海道の空港防災拠点として重要な役割を担っている。このことから、当該空港は平成24年度より滑走路や誘導路を対象に、地盤の耐震補強工事が実施されてきた。

本工事は、平成27年4月に着工し、同年6月より空港制限区域内A滑走路上（写真-1、写真-2）で、浸透固化処理工法による地盤改良工事および付帯工事他を実施したものである。



写真-1 新千歳空港 施工箇所



写真-2 施工箇所（着工前）

2. 浸透固化処理工法の概要

浸透固化処理工法は、平成10年に東京国際空港で初めて採用され、主に空港及び港湾施設等で工事が行われている。平成26年度までの実績は、全改良対象土量が約104万m³、このうち空港の改良対象土量が約22万m³に至っている。

当該工法は、浸透性の高い恒久薬液を浸透注入することにより、砂地盤の間隙水を置換するものである。その後、薬液がゲル化し、粘着力が付加され地盤のせん断強度が増加することで、地盤の液状化防止を図る新しい工法である。

施工は、コンパクトな機械を使用するため、狭隘な箇所や既設構造物直下の地盤改良を可能とする。また、施工設備の日々復旧が容易なため、空港や港湾の供用を妨げることがなく、緊急時の迅速な撤退も可能である。

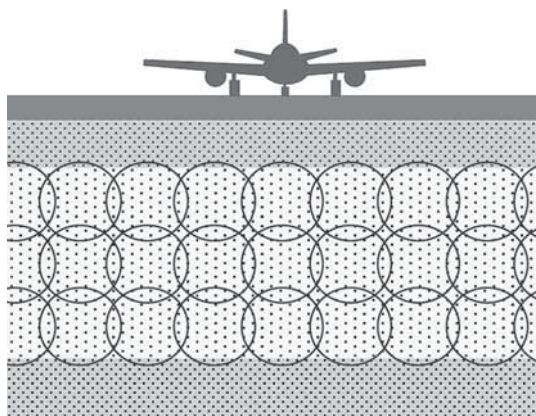


図-1 空港滑走路 地盤改良イメージ

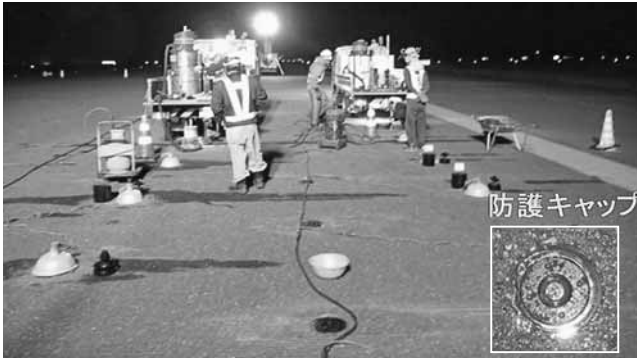


写真-3 浸透固化処理工法（改良体）

3. 工事の作業状況

(1) 防護キャップの設置

事前に削孔位置測量と埋設物調査を実施する。削孔による孔口は、空港稼働時の飛行機走行に支障をきたさないように、防護キャップを設置する（写真－4）。



写真－4 防護キャップ設置状況

(2) 削孔および注入外管の建込み

削孔機（ドリリングマシン）を削孔位置にセットし、所定の深さまで削孔する（写真－5）。その後、注入外管を建込み、浸透固化注入時の薬液の逸走を防止するため、スリーブパッカー注入を行う。



写真－5 削孔等作業状況

(3) 浸透固化注入工

注入に使用する薬液は、空港制限区域外のプラントヤードにて作液する。作液は、タンクローリー車に積載運搬し、車上注入設備をかえして滑走路直下の所定位置に注入する（写真－6）。



写真－6 浸透固化注入状況

(4) 完了

浸透固化注入工の完了後、事後調査による強度確認を実施し、防護キャップの撤去と舗装復旧を行う。以上の工程で、浸透固化注入工事は、平成27年11月上旬に完了した。



写真－7 完了全景状況

4. 工事の留意点

本工事は、滑走路上での施工であり、工事事故を起こすことは、航空機運航に重大な影響を与えるおそれがある。

そこで、以下の対策を講じたことで、無事故で施工を完了することができた。

(1) 機械油脂等の漏洩防止対策

特に削孔作業時は、機械施工面にシートを敷設し、重機や使用機械等からの作動油等で滑走路を汚さないよう徹底した。

(2) 資機材等の置忘れ防止対策

滑走路上で使用する一切の資機材（工具含む）は、持込機材点検表を作成管理し、滑走路入場時および退場時に資機材の数量チェックを徹底して実施した。

(3) 滑走路入退場訓練の実施

制限区域内の定められた滑走路滞在可能時間（23時から翌朝6時まで）内で、通行ルート周辺の空港施設を破損することなく確実な入退場を実施するために、事前に入退場訓練を徹底して行った（所要時間と経路、空港施設の把握）。

5. あとがき

供用中の滑走路における浸透固化処理工の無事故達成は、発注者はじめ関係各位の力添えのお陰である。今後も、全工期を通して無事故で竣工を迎えるよう更に尽力したい。

私の 趣味

『音楽鑑賞 ・・・ジャズ』



東亜建設工業(株) 北海道支店
支店長 金子 功

この欄を担当することになりました東亜建設工業株式会社の金子です。何故か東亜の北海道支店長が3代続けて書いている様ですが、北海道港湾空港建設協会の広報委員長だから？等々つまらない言い訳を述べながら本コラムを始めます。

私は昨年4月に北海道支店長として本社から赴任しました。今回が3回目の北海道勤務であります。20代で5年間、40代で4年間勤務して、今年から10年目の勤務になります。前回2度目の赴任期間中に肺炎を患い、肺炎から心臓の異常が発覚し、札幌医科大学病院において心臓の治療と手術を行い2度の入院で60日ほど入院生活を送りました。

入院生活を一言で言うと、『「退屈な時間帯」を如何に過ごすか』の一点であります。入院患者は、手術前後は精密検査等で忙しい時間帯もありますが、それもほぼ半日で終了し、後はベッドで過ごさなければなりません。そして一番の楽しみである「食事」をひたすら首を長くして待つこととなります。

この待ち時間に何をするか？私は「読書」と「音楽鑑賞」で乗り切ることにしました。

当時私はジャズに目覚めたばかりで、「ジャズの名盤入門」(中山康樹著、講談社現代新書)の中からあれこれと買い始め、7~8枚病院に持ち込みCDウォークマンで聞いていました。その中でも私が何度も繰り返し聞いたのが、下の2枚です。

写真上が「カインド・オヴ・ブルー／マイルス・デイビス」、下が「ワルツ・フォー・デヴィ／ビル・エバンス」です。両作品ともモダン・ジャズ屈指の名作として知られている作品で、今でもジャズのライブハウスでその演奏を聴くことが出来るでしょう。特に「カインド・オヴ・ブルー」は1951年に発表されたアルバムで、それまでのコード進行主体の楽曲ではなく、スケール(モード)を指標とし主旋律から派生するアドリブ・ソロ(即興演奏)の進行に切替えたマイルスの代表作です。クレジットされているミュージシャンには、ジョン・コルトレーン(テナーサクソ)、キャノン・ボール・アダレイ(アルトサクソ)、そしてビル・エバンス(ピアノ)とジャズ界の巨匠ばかり。特に1曲目の「ソー・ホワット」はその演奏のスリリングな展開に心躍らせた覚えが

あり、今でも私の大好きなジャズの1曲です。

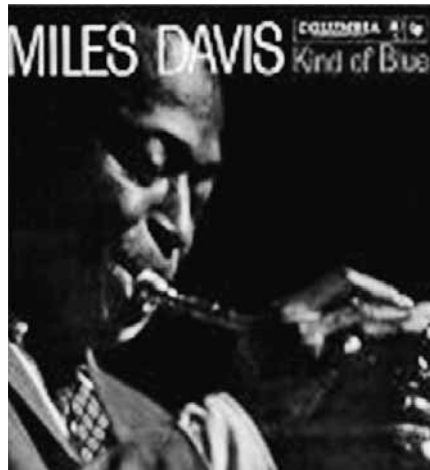
「ワルツ・フォー・デビィ」は1961年に発表されたビル・エバンス・トリオによるニューヨークにおけるライブ・アルバムです。ビル・エバンスは前述のマイルス・デイビスに見出され、マイルスのモード理論には無くては為らないピアニストでありました。ビルはクラシックの影響を強く受けていると言われていまして、その旋律は優しく、美しく、そして想像力豊かな印象を私に与えてくれました。そのタイトル曲の「ワルツ・フォー・デビィ」は、前奏はワルツ（3拍子）で、主要部は4拍子に変拍します。私にとって、この変拍が憎たらしいほど素敵で、（ビルが姪っ子の「デビィ」の為に書いたと謂われるのが納得できるほど）慈愛に満ちた優しい曲です。

他にもジョン・コルトレーンのムーディーなサクソクスや、チェット・ベイカーの甘いヴォーカルも大好きで、入院中も今でも聞いていました。でも私は右記の2枚を先ず「お気に入り」に挙げます。

これらのジャズCDが手術後の私の心臓の心拍数が上がらぬ様、心穏やかにしてくれました。そして差し入れていただいた雑誌や本を読んで、食事までの時間を退屈せず過ごすことが出来ました。因みにテレビは、特に午後のCMで食品関係のものが多く、逆に空腹感と食べられない屈辱感が増すので極力見ないようにしていました。

退院後、心臓はすっかり回復しました。しかし私のジャズ好きは高じて止まらず、今やCDが40~50枚にもなり現在でも小銭があれば購入していますし、通勤中もウォークマンで聞いています。（新しいラックを買わなくては…）

最後に、入院中は私の家内をはじめ当時の東亜のスタッフの皆様方に大変お世話になりました。改めて感謝・御礼申し上げます。



国土技術開発賞(国土交通大臣賞)受賞 永久型枠工法の 特色と効果について

RH₁₃/H₀'

b/H₀'

株式会社 南組

1. 技術開発の経緯

漁港・港湾構造物は、その大部分がコンクリート構造物であり、築造され長い時間経過の中で耐用年数に至らない年数でも部分的劣化が進行し、放置することによりその機能を保てない施設が出てきている。

このことから、施設の機能保全による長寿命化が進められているが、地方自治体などの財政的な困窮などもあり、従来工法よりも経済的、効率的な工法を検討する必要があるが生じている。

2. 工法の内容

岸壁や防波堤などの干満帯で凍結融解作用等によりコンクリートが劣化・欠損している施設が多く見られているが、干満帯以外のコンクリートは比較的健全な状態に保たれているため、欠損部周辺を補修・補強することにより施設の延命が図られる。

当該工法は干満帯の欠損箇所をプレキャスト製品の高強度コンクリートパネル（以下、永久型枠という）で覆い、モルタル製のボルト・ナット（ボルモ）で固定し欠損部に水中コンクリートを充填するもの。

また、施工にあたっては形状自在妻枠（移動式水中作業足場付き）を岸壁や防波堤上部へ固定し、永久型枠の支保と永久型枠側面からの打設コンクリートの漏洩を防止するとともに付随する移動式水中足場により、潜水作業の安全性と作業効率を高めるものとなっている。

当社では永久型枠工法の技術を応用し、干満帯のみならず、全面が劣化している施設の補修も必要であることから、永久型枠全面被覆工法（仮称）を開発している。

これは堤体下部にL型ブロックを据え付け、これをベースとして薄い高強度コンクリートパネルを積み上げ内部に水中コンクリートを充填することで、堤体面から

50cm程度の張り出しで全面を高強度コンクリートパネルで被覆し耐久性の向上を図るものでこの工法でも専用の取り付け架台、移動式足場により安全で効率的な施工が可能となっている。

3. 技術の効果

これまで、岸壁や防波堤の補修工法は、取壊・復元か腹付け工法が取られてきたが、腹付け工法では、1.5m程度、既設法線より前出しし水中コンクリートを打設する工法となっているため、漁業活動に支障が生じる場合もあった。

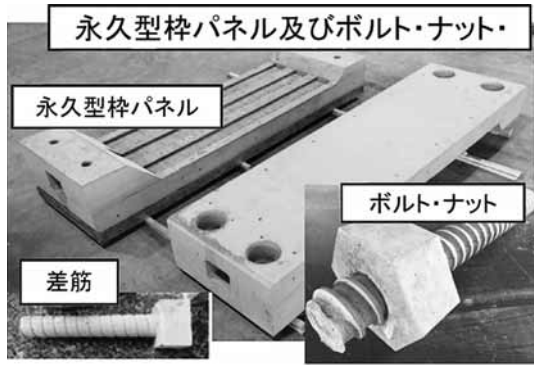
これに比較し永久型枠工法は、前出しが0.3m程度で済むため、漁港の泊地、港口への影響が最小限であり、特に狭隘な漁港では大きなメリットとなる。

さらに、費用は同延長の腹付け工法に比較しコストは1.5割程度縮減されるとともに、工事による現場の占有期間が概ね1/2程度で済むため、施設の供用開始が早期になり漁業活動への影響を最小限にすることが可能になる。

永久型枠やボルモは鉄筋を使用せずアラミドロッドで補強しており、高強度で緻密なプレキャスト製品となっているため、塩害・凍結融解・摩耗に耐性があり補修箇所の延命が可能となる。

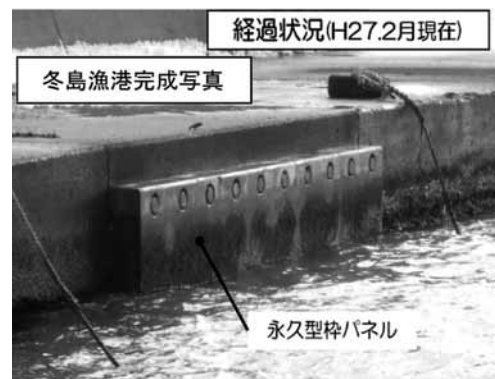
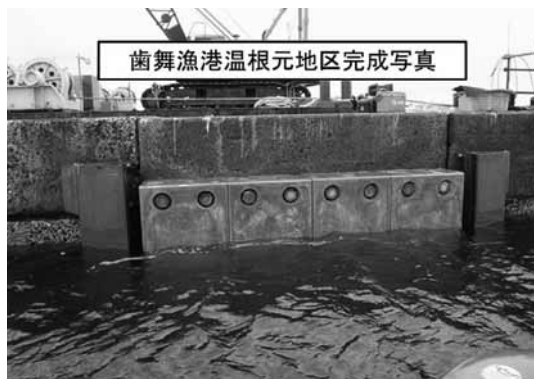
4. 実施事例

- 第1種
冬島漁港（北海道日高管内様似町）での施工試験
平成25年11月
- 第4種
齒舞漁港温根元地区（釧路開発建設部発注）
平成27年3月

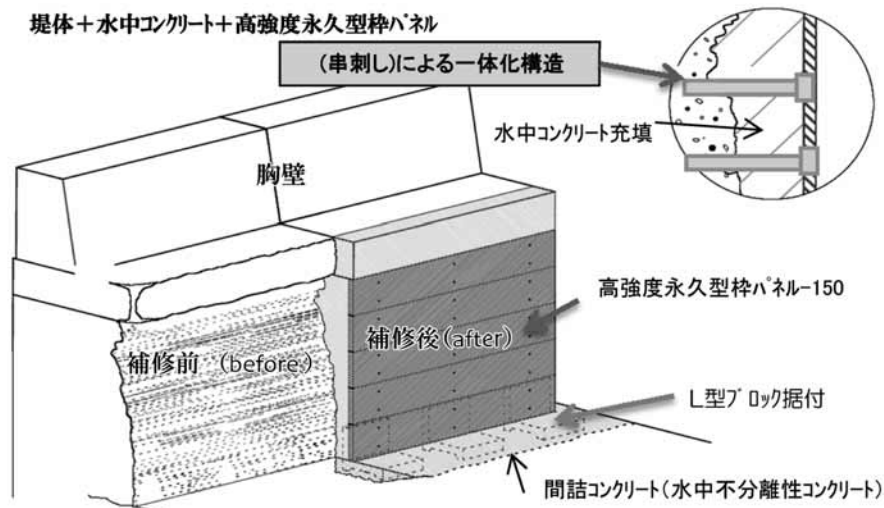


試験項目	数値	備考
圧縮強度	60N/mm ² 以上	-
凍結融解性能	98%	普通コンクリート：60~85%

試験項目	数値	備考
軸力	265N・m	普通ボルトM24相当
ボルトせん断力	94.7kN	普通ボルトM24相当
ボルトねじ山せん断力	144kN	-
ボルトナット引抜き	97kN	-



永久型枠全面被覆工法 概略図



イベント

「経済と暮らしを支える 港づくり全国大会」開催される

(公社)日本港湾協会、全国港湾知事会協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連絡会、港湾海岸防災協議会で構成する「経済と暮らしを支える港づくり全国大会実行委員会」は、平成27年10月22日、東京・平河町の砂防会館大ホールにおいて「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」を開催し、全国各地から港湾管理者をはじめとする港湾関係者約1000名が参加した。

主催者として宗岡正二(公社)日本港湾協会会長、林文子全国市長会港湾都市協議会会長(横浜市長)、が挨拶、来賓挨拶のあと菊地身智雄港湾局長から港湾行政報告、港湾整備・振興に関して4市長が意見表明した。引き続き小野徹礼文町長が「港湾整備・振興に関する要望書」

を提案し、満場一致の賛同を得て宗岡日本港湾協会会長から国土交通省に要望書が手渡された。

要 望 項 目

1. 東日本大震災からの復興加速
2. 日本経済の再生
3. 国民の安全・安心の確保
4. 豊かで利便性の高い地域社会の実現



宗岡正二日本港湾協会会長



港湾の整備・振興に関する要望書を提案する礼文町小野町長

北海道開発局と室蘭開発建設部で「防災・危機管理訓練」を実施

北海道開発局と室蘭開発建設部は9月2日、苫小牧港湾事務所で防災・危機管理訓練を実施した。訓練では、十勝沖を震源とする大規模地震および津波の襲来を想定。苫小牧港に関係する七機関も参加し、被災状況等の情報収集・伝達訓練を行い、一層の連携強化を図った。

防災週間の取り組みの一環で北海道開発局として初めての試み。大規模災害時における応急対策等の確認・検証を行うとともに、関係機関との連携強化を図ることを目的としている。

この日は、港湾管理者の苫小牧港湾管理組合をはじめ、一般社団法人室蘭建設業協会、一般社団法人日本埋立浚渫協会道支部、第一管区海上保安本部苫小牧海上保安署、苫小牧港工事安全連絡協議会など七機関が参加した。

訓練では、大規模地震および津波の影響により、船溜防波堤や、東ふ頭マイナス九メートル岸壁、臨港道路などで被害が発生したものと想定。各機関が所管する施設の被災・点検状況等の情報伝達を本番さながらに行い、有事における連絡体制の強化を図った。

最後に、室蘭開発建設部の宮部秀一次長が「災害が発生した際には、きょうの訓練のように各機関の連携が必要となる」と講評。室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所の森田泰寛所長は「災害発生時に適切な対応をとれるよう、今後もスキルアップしていきたい」とした。

なお、当初予定していた航路啓開訓練、岸壁の障害物除去訓練、施設点検訓練などは、当日の悪天候の影響により中止した。(記事は北海道通信新聞から抜粋して掲載しました)



訓練開始を待つ苫小牧市長ら



室蘭開発建設部の宮部次長



訓練開始

小樽港フィールド・ラーニングの開催

小樽開発建設部は11月26日、同部庁舎で第5回フィールド・ラーニングを開催した。

勇建設株式会社営業部長の大倉正憲氏が、初代小樽港湾事務所長で「港湾工学の父」と呼ばれる廣井勇博士が手がけた小樽港北防波堤の施工技術と工夫をテーマに講演。職員や関係者ら約70名が参加し、廣井博士の技術者精神を学んだ。

この取組は、近代築港の計画、築造に多大な功績を残



講演会

した廣井博士の技術者としての姿勢を学習することを通じて、港湾技術者としての意識、技術、知識を深化させることや港湾を含む社会資本整備の意識を再確認

することを目的として平成23年度から実施しているもの。今回で5回目となる。

この日は、平成14年に当時の小樽港湾事務所職員が



講演する大倉氏

中心となり結成した勉強会「OTARUゼミナール」のメンバーの大倉氏が講師を務め、明治初期から小樽港北防波堤着工までの小樽を取り巻く社会情勢を踏まえた上で、廣井博士が北防波堤施工において確立した機械化一貫施工技術やコンクリート材料の品質と配合、コンクリートブロック製造の方法、養生などの品質管理や火山灰混合コンクリートによるコスト削減など、北防波堤施工に用いた技術や工夫について説明した。

(記事は北海道通信から抜粋して掲載しました)

冬の小樽運河観光がスタート

11月21日に小樽と余市で同時に「小樽・余市ゆき物語」が開幕した。小樽運河では、幻想的な青色のイルミネーションで彩る「青の運河」が始まり、小樽運河浅草橋から中央橋にかけて、1月31日までの日没から午後10時30分の間、青のLEDライト約1万個とライトアップで演出されている。きらめく明りの中、家族連れやカップル、無邪気に雪と触れ合う外国人観光客らが初冬の



冬仕様での運河クルーズ船

を楽しんでいた。

一方、12月1日から運河クルーズの冬期運航が始まった。船は快適に楽しんでもらえるよう座席ヒーターと幌付きの冬



青色ライトで飾られた「青の運河」

仕様で、毎日午前11時～午後6時の間に30分毎に運航し、運河内の他に小樽港～北運河までを約40分かけて巡っている。日没後からは船に青色ライトが施されたナイトクルーズとなり、冬限定の幻想的な光景、静けさの中、ゆっくりとした周遊が楽しめる。

(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)

留萌市で「道北地域連携シンポジウム」を開催

10月5日、留萌市中央公民館で道北の農林水産物の輸出拡大に向けて課題と解決策を考えるシンポジウムが開かれた。

留萌、稚内、旭川の開発建設部の主催で、建設業や自治体職員、関係者ら約200人が参加した。

基調講演で（一社）寒地港湾技術センターの川合紀章事務局長は、農産品の物流について「北海道の農産品は出来秋に出荷が重なり、輸送コストが割高」と現状の弊害を指摘。「地元で消費するだけ



基調講演の川合紀章氏

でなく、農産品を道北全体でまとめるべき。さらに出荷時期をずらすだけで付加価値が高まる」と助言した。

事例発表では、2014年度に全国上位に急浮上した留萌港からのトドマツ輸出や道北物産展の実績などの事例を報告。

パネルディスカッションでは、道北からの輸出促進と販路拡大のため工藤広稚内市長、西川将人旭川市長、高橋定敏留萌市長の3市長が課題や豊富を語った。

（記事は留萌新聞から抜粋して掲載しました）



パネルディスカッション

過去最多の来場 苫小牧漁港ホッキまつり

第5回苫小牧漁港ホッキまつりが10月18日、苫小牧港・西港漁港区で開かれた。晴天に恵まれ、過去最多の3万4000人が来場。水揚げ量日本一の苫小牧産ホッキ貝をはじめ、新鮮な海産物や海鮮料理を買い求める市民、観光客でにぎわいを見せた。

苫小牧漁業協同組合などで行く実行委が主催。恒例のホッキ貝7個1000円の特売コーナーには長蛇の列ができ、約2時間で完売した。

会場はホッキ早むき競争や秋サケが丸ごと1匹あ



賑わいのホッキまつり会場



サケの棒引き

る「サケの棒引き」、物をつかむ棒状のマジックハンドを使って水中のホッキ貝をつかみ上げる「ホッキ狩り」など多彩なイベントで盛り上がっていた。

来場者はホッキご飯やホッキカレー、ホッキかまぼこなどの料理に舌鼓、札幌から父親と訪れた小西健瑠（たける）君（8）は、「いろいろなホッキ料理があるけど、どれもおいしい」と満面の笑みを浮かべていた。

実行委によると、この日の来場者数は、前回は約4000人上回った。（記事は苫小牧民報から抜粋して掲載しました）



ホッキ早むき競争

一大供給基地に期待 釧路港バルク物流拠点着工祝う

国際バルク戦略港湾の指定を受け整備が進んでいる釧路港の国際物流ターミナルの着工を祝う記念式が12月27日、釧路市観光国際交流センターで行われた。関係者が一堂に、着工記念セレモニーを行うとともに港湾関係者の蝦名大也釧路市長から同ターミナルなどを運営・管理する米谷好晃釧路西港開発埠頭社長に認定書が手渡された。

記念式では数土勉釧路開発建設部長が「早期の供給開始を目指して全力を尽くしたい」、さらに蝦名市長が「輸送コストの低減による波及効果は、地域のさらなる発展につながる」と式辞を述べた。

引き続き菊池身智雄国土交通省港湾局長があいさつ。さらに伊東良孝農水副大臣、佐藤英道農水大臣政務官、

鈴木貴子衆院議員が祝辞を述べた。

同整備事業はトウモロコシなどの飼料原料を満載した大型船が入港出来る水深-14m岸壁の整備によって効率的な輸送体系を実現するのが目的。

182億円の事業費をかけ、2017年度までの完成を見込んでいる。

同記念式で石橋榮紀釧路農協連会長は「国際バルク戦略港湾の整備によって牛乳と肉の一大供給基地としてさらに発展することを期待している。地域の雇用拡大にも大変期待している」と述べた。

記念セレモニーは、関係者代表が釧路子どもミュージカル「キッズロケット」の子どもたち共にくす玉を割って着工を祝った。（記事は釧路新聞から抜粋して掲載しました）



くす玉を割って・・・着工を祝う



数土勉釧路開発建設部長

写真提供：釧路開発建設部

大型客船寄港

室蘭港に マリナー・オブ・ザ・シーズが入港

道内に入港するクルーズ客船では最大規模の「マリナー・オブ・ザ・シーズ」(13万8279トン)が9月12日、室蘭港に初入港した。午前7時ごろ同港崎守ふ頭第6バースに接岸、歓迎セレモニーや関係者向けの船内見学会が開かれた。乗客らはバスに乗り込み、室蘭市内や道内観光などへ向かっていた。

今回に航海は9月6日に中国・天津を出発。京都・舞鶴を9月10日出港後、室蘭に寄港した。乗船客は約2900人で約8割が中国人、ほか欧米各国からの観光客である。同ふ頭では室蘭港を愛する会のメンバーら約20人が、曇り空の下で手作りの国際信号旗を振りながら出迎えた。

乗船客らは市内を回るループバスなどに乗り込み、地球岬や道の駅みたら室蘭など、観光へと繰り出した。同会が企画する日本製鋼所室蘭製作所の瑞泉鍛刀所も見学し、好評だった。

船内では歓迎セレモニーが開かれた。青山剛市長、栗林和徳室蘭商工会議所会頭、堀井学衆院議員ら各級議員含め約20人が出席。青山市長は「室蘭に来ていただきありがとうございます」と英語でスピーチ。同市長と栗林会頭が花束や記念品として室蘭夜景のパネルをニールセン船長らにそれぞれ手渡した。

市内商店街では乗船客のため歓迎イベントが行われた。輪西商店街振興組合では、ぶらっと・てついちで着物の着付け体験、中島商店会コンソーシアムふれあいサロンほっとな〜るでは着付けとかつぼれなどが披露されている。大町商店会では国際信号旗が店頭飾られた。

午後からは、抽選で当たった西胆振3市3町の住民50人を対象にした船内見学会が行われた。同船は午後5時に次の寄港地横浜へ向けて出港した。

(記事は室蘭民報から抜粋して掲載しました)

崎守ふ頭に接岸する
「マリナー・オブ・ザ・シーズ」



待体験?



着物着付け体験



船長に室蘭港夜景パネルを渡す

釧路港に「シルバー・シャドー」寄港

北海道標茶高等学校は9月28日、同校で行っている「ツーリズム・プロジェクト」のおもてなし第3弾として、釧路東港区耐震旅客ターミナルに入港したクルーズ船「シルバー・シャドー」（2万8258トン、乗員乗客約700人）の受け入れボランティアに参加した。

同ボランティアは外国人観光客との交流を通じて、英語学習や異文化への興味関心を高めることを目的としており、釧路市や釧路国際交流ボランティアの会の協力を

得て、5月のフォーレングラム、7月のダイヤモンド・プリンセスに続き、3回目となる。

この日、15人の生徒がボランティアに参加。フィッシャーマンズワーフMOO内や、街中のガイド、MOOに隣接したEGGで着物の着付けや折り紙体験、書道体験など交流サロンの補助を行った。

（記事は釧路新聞から抜粋して掲載しました）



耐震旅客ターミナルに接岸「シルバー・シャドー」



EGG内の交流サロン



EGG内の販わいサロン

◎事務局だより◎

北海道港湾空港建設協会

【常任理事会】

常任理事会を平成27年11月17日（火）京王プラザホテル札幌で開催しました。

議題

1. 日港連運営委員会等について
2. 平成28年度 日港連会長表彰候補者について
3. 北海道開発局港湾空港部長への要望事項(案)について
4. 平成28年度 日本港湾協会港湾功労者表彰候補者について
5. その他

【広報委員会】

会報誌第87号発刊に向けた編集会議を平成27年10月30日（金）、KKRホテル札幌で開催しました。

【技術委員会】

技術委員会を7月28日（火）ホテル札幌ガーデンパレスで開催しました。

議題

1. 平成27年度行事予定について
2. 平成27年度活動方針について

技術委員会を11月12日（木）KKRホテル札幌で開催しました。

議題

1. 平成27年度北海道開発局港湾空港部長要望案について
2. 平成27年度港湾工事報告会の選定について
3. その他

日港連・港湾空港建設協会共催による北海道開発局との要望・意見交換会を12月10日（木）ホテルポールスター札幌で開催しました。

港関係団体連絡会

【連絡会】

港関係団体連絡会を平成27年6月18日（木）ホテル札幌ガーデンパレスで開催しました。

議題

1. 平成26年度収支決算及び平成27年度収支予算（案）について
2. 要望項目の調査日程について
3. その他

港関係団体連絡会議を平成27年10月9日（金）北海道建設会館で開催しました。

議題

1. 平成27年度要望事項について

【意見交換会】

北海道開発局担当者との意見交換会を平成27年11月24日（火）北海道建設会館で開催しました。

議題

1. 懸案事項について意見交換
2. その他

港湾・空港・漁港事業に係わる要望・意見について北海道開発局と意見交換会を12月11日（金）ホテルポールスター札幌で開催しました。

北海道港湾振興団体連合会

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が平成27年10月22日（木）、東京都の砂防会館で開催されました。

日本港湾空港建設協会連合会

【港湾局長意見交換会】

国土交通省港湾局長と日港連（理事全員、北海道から宮崎会長が出席）の意見交換会が平成27年11月10日（火）に国土交通省港湾局会議室で行われました。

【日港連セミナー】

第88回 日港連セミナー（中堅技術者対象）が平成27年6月25日（木）那覇市で開催されました。
第89回 日港連セミナー（中堅技術者対象）が平成27年10月1日（木）水戸市で開催されました。
第90回 日港連セミナー（経営者対象）が平成27年11月9日（月）東京都で開催されました。



石積防波堤(北側)と函館山

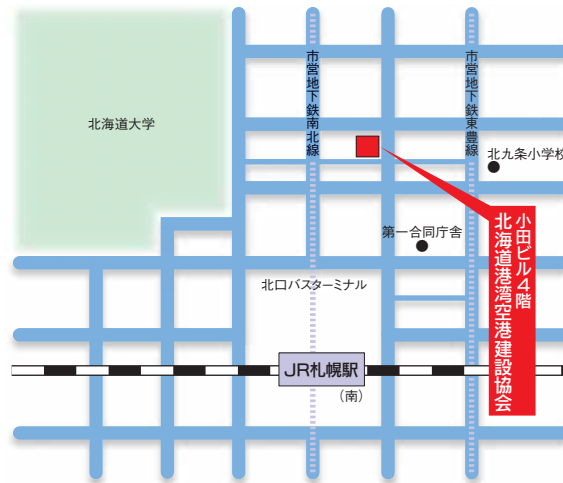


活イカの陸揚げ



石積防波堤(南側)

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.87

発行年月 平成28年1月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 小山 良明
 印刷 須田製版